

キャラクター名  
文月 優夜

プレイヤー名

シンドローム	バロール		ワークス	FHセルリーダーク	カヴァー	スーパーのイケメン店員
	バロール					
オプション			年齢	26	性別	男
覚醒	生誕	衝動	解放	初期侵食率	35	%
出自	母親不在	経験	伝説 (FH表)	邂逅	愛情 (※欲望表)	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	0		1			1	行動値	9
感覚	2		0			2	(非装備時)	9
精神	4	1	0			5	戦闘移動	14
社会	2		0			2	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	3		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:	2		情報:	FH	2
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
[StarDust]		0				<黒星粉碎>Lv3
[Das Lied der Dunkelheit]	RC	5r+3				<C:バロール>+<黒の鉄槌>+<黒星の門>
[Broken marionette]		0				<迎撃する魔眼>

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品 (サングラス)	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
作業員	P	N		
文月 神夜 (ふみつき じんや)	P 慈愛	N 悔悟		
堂 和由 (※同卓者別PC) (部下)	P 信頼	N 不信任		
『神授の花束』 (ミストラブルーケ)	P ●興味	N 脅威		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6    残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
黒星粉碎	2	4d10	メジャー	視界	範囲 (選択)	自動	120%	
効果: 他エフェクトと組み合わせ不可。対象に[Lv+5]D10点のHPダメージを与える。命中判定はなく、対象はリアクションを行えない。								
魔王の外套	1	5	マイナー	至近	自身	自動	120%	
効果: シーン間、自分が受ける (予定) のダメージを常に-[Lv*5+5]する。エフェクトを使用すると、バッドステータスの暴走を受ける。								
C:バロール	2	2	メジャー	-	-	対決		
効果: C-Lv (下限7)								
黒の鉄槌	7	1	メジャー	視界	-	対決		
効果: 攻撃力:[Lv*2+2]の射撃攻撃。同エンゲージ不可								
黒星の門	2	2	メジャー	-	-	-	ピュア	
効果: 同エンゲージ不可解消。組み合わせた判定ダイス+[Lv+1]								
L:迎撃する魔眼	2	7	オート	視界	単体	対決	リミット	
効果: 前提: 黒の鉄槌 リアクション直前に使用する。リアクションを放棄し、代わりに対象に《黒の鉄槌》飲みを使用した粉液攻撃を行う。この時の判定のC値を-Lv (下限7) する。この攻撃に対象はリアクションを取れない。								
ディメンジョンゲート	★	3	メジャー	至近	※	自動		
効果: ゲート作るよ!								
魔王の玉座	★		常時	至近	自身	自動		
効果: 浮いてるよ!								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

文月優夜 (ふみつき-ゆうや)

『宵闇の地平線 (セラータ・オリゾンテ)』のセルリーダーク。  
『愛を与え、愛を受ける』を理念に、部下たちにも『無用な殺生は禁止』を命じている。  
曰く「殺しちゃったらもう愛を与えることも、受けることも出来ないからね」という。  
愛する、愛されることを中心にしか考えていない。

彼が殺意を抱くのは、己を貶したモノが目の前に現れた時。  
愛することは気分が悪い。愛されるなんて以ての外。FHセルリーダークだから。お前が嫌い。お前の部下が嫌い。  
…などなど。地雷ワードはたくさんある。

-----

父親が母親を殺し、あまつさえその左目と右手を移植して。  
「ずっと一緒にいよう」なんて言いながら、母の骨を口にしていた。  
どうしてあんな奴が、あんな、奴が、僕の父親なのか。わからない。  
殺さなきゃ。アレは殺さなきゃ。母さんのいる天国から遠ざけなきゃ。  
アレは地獄に落とさないと。アレを地獄に落とさないと。

そう思っていたのに。  
気づけば僕は、父親に、部下に助けられて。  
僕がやってたことは、全て間違いだったと気づかされたんだ。